



# 多文化適応 授業第1回目

# 学びのポイント

- 多文化適応とは
- 文化の特徴・定義 発表
- 意思決定の方法の文化傾向
- 変化への対応の文化傾向

# 多文化適応

- 自分と相手の文化的背景に興味をもつ
- 文化の違いを知る・ありのままに受け入れる
- 違いに適応した行動をとる



# 文化の定義・特徴

集団で共有される、価値観、考え方、感じ方、行動の仕方のパターン  
そのパターンは集団によって異なる

ヘールト・ホフステード博士

“Culture is a system of shared beliefs and values which are **learned rather than inherited.**”

(Brian J. Hurn, Barry Tomalin, 2013, p.5)

## SYMBOLS

- Words, gestures and objects whose meaning has to be learned. They include language and jargon.
- The easiest to acquire and the fastest changing level of culture.

## VALUES

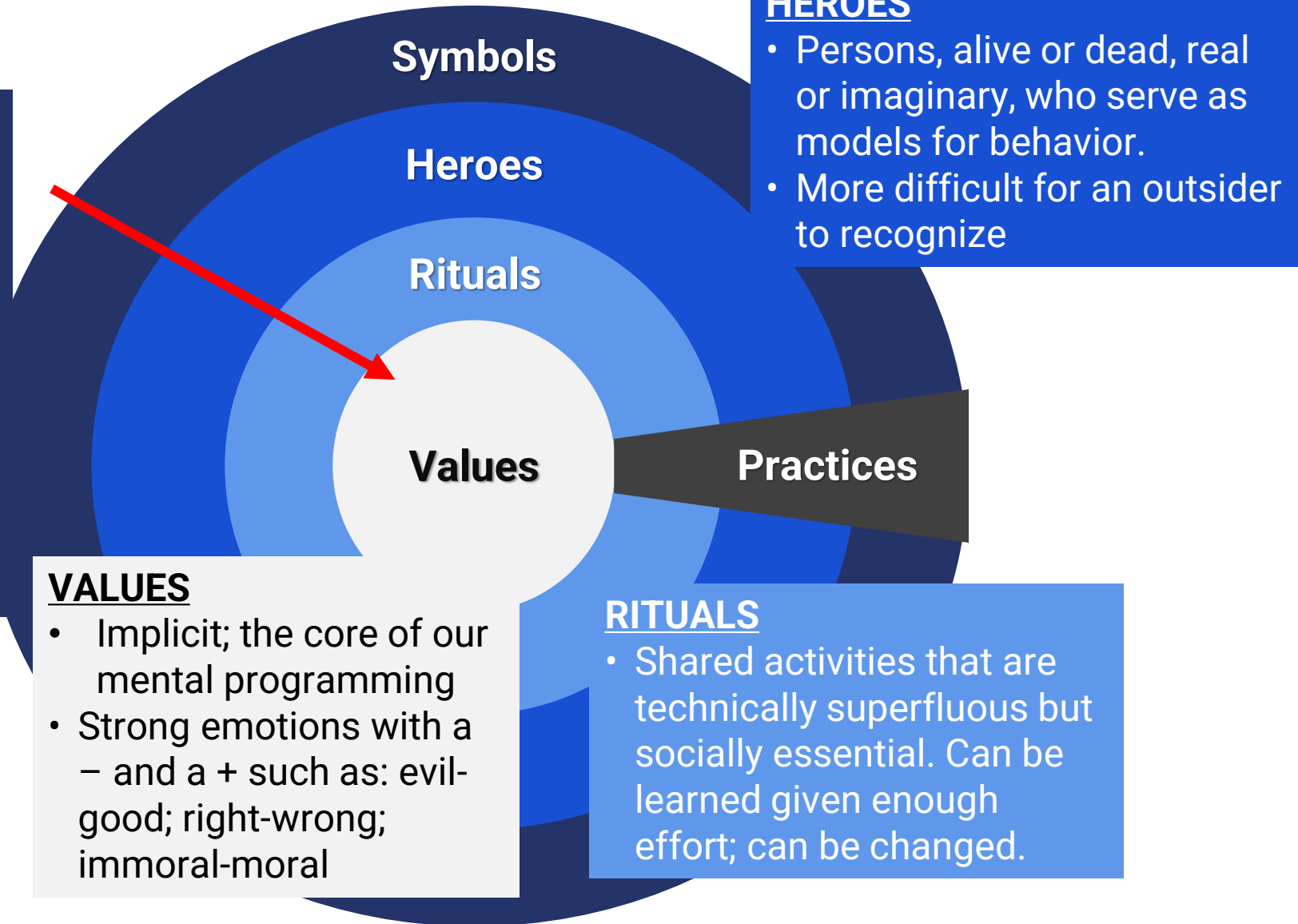
- Implicit; the core of our mental programming
- Strong emotions with a – and a + such as: evil-good; right-wrong; immoral-moral

## RITUALS

- Shared activities that are technically superfluous but socially essential. Can be learned given enough effort; can be changed.

## HEROES

- Persons, alive or dead, real or imaginary, who serve as models for behavior.
- More difficult for an outsider to recognize



Source: Geert Hofstede, *Cultures and Organizations: Software of the Mind*

Primary awareness

目に見える文化

行動 習慣

文化

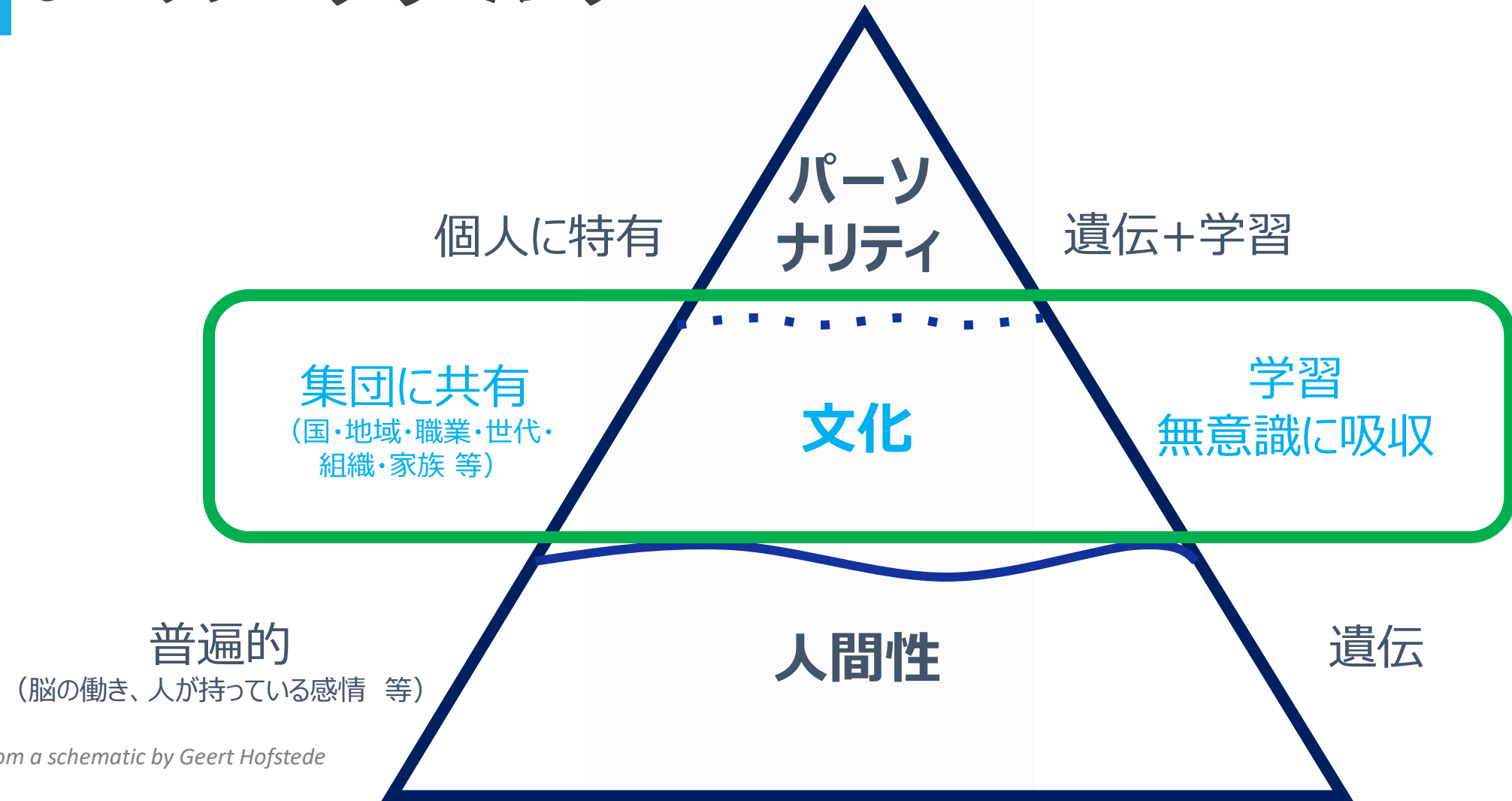
目に見えない文化

価値観 前提 信念

In depth awareness



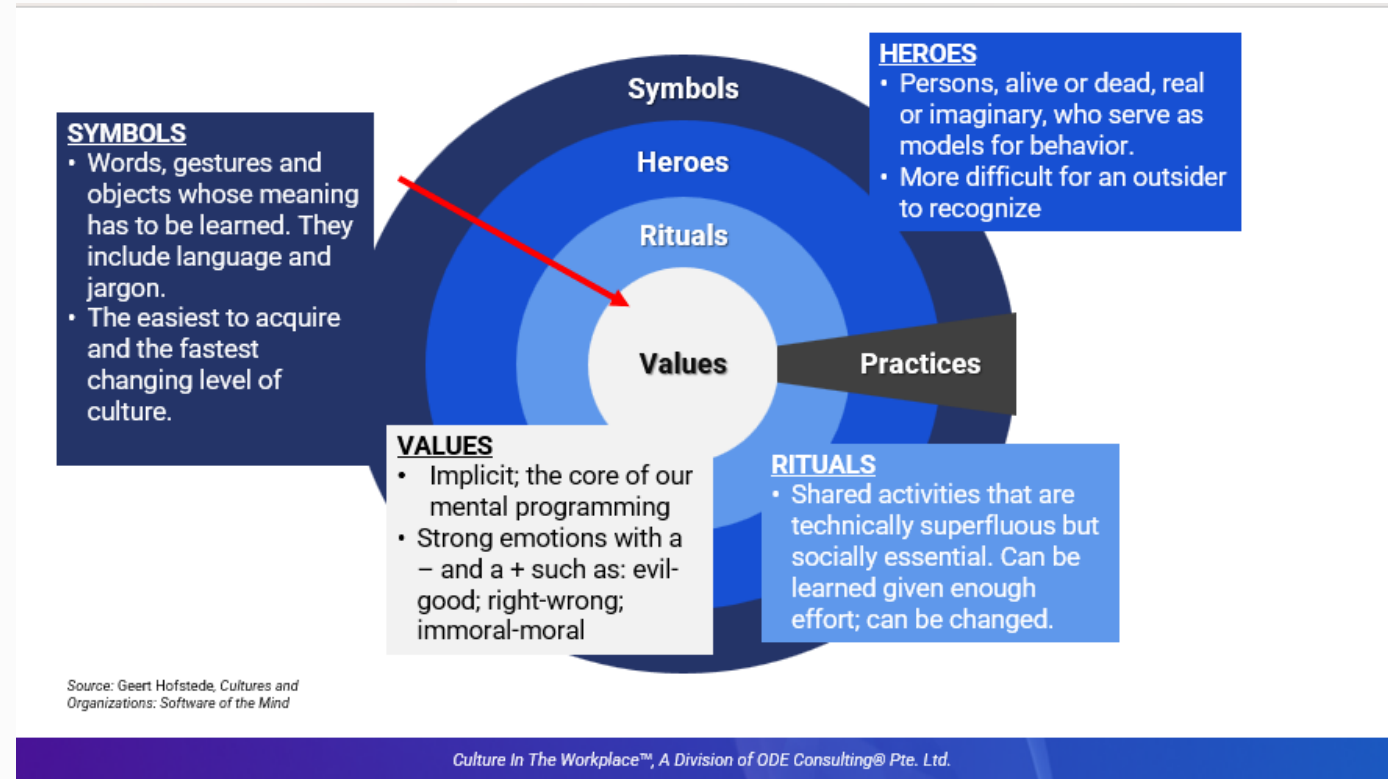
# 人の考え方、感じ方、行動のパターンに影響を与えている 3つのプログラミング



Adopted from a schematic by Geert Hofstede

# 文化を学ぶ

文化には構成要素があるが、  
文化の中核である**価値観**の  
なかの **国民文化** を学ぶ







# どうやって国民文化を知る？



# 文化次元 国民文化を知るツール



# 意思決定の方法の文化的傾向

➤ 会議や交渉に役立つ

個人主義・集団主義  
権力格差（参加型・階層型）

# 意思決定の方法 と関係する文化次元①

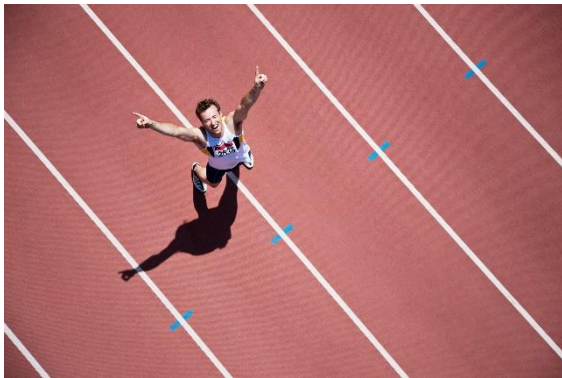
個人主義・集団主義  
Individual  
Group  
Orientation

# 個人主義-集団主義

個人の利益が優先されるのか、集団の利益が優先されるのか

## 個人主義

個人というアイデンティティ



- 私はという視点から物事を考える
- 罪の意識
- 人間関係より「職務」を優先、自尊心
- 教育は自立の準備

## 集団主義

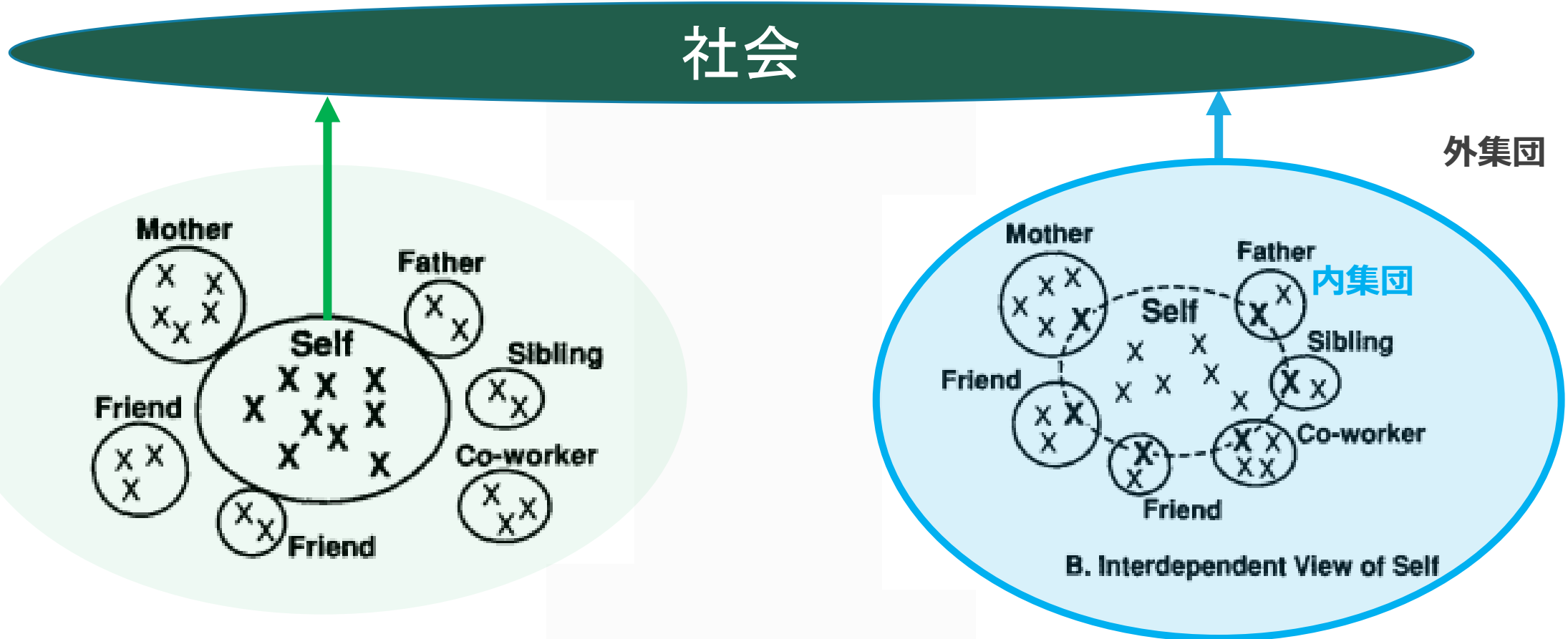
属する集団の一員というアイデンティティ



- われわれはという視点から物事を考える（調和）
- 恥の意識
- 職務より「人間関係」を優先、面子
- 教育は、集団社会に仲間入りするための準備

# 個人主義-集団主義

Key word 内集団-外集団、独立-相互依存



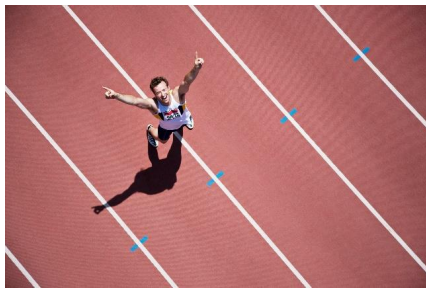
個人主義：独立した自己

集団主義：相互依存的な自己

# 個人主義-集団主義 日本の位置は？ チャット



個人主義  
Individual Orientation



集団主義  
Group orientation



# 個人主義-集団主義 コミュニケーションスタイル

## 個人主義



- 明白・ダイレクトな表現
- 意見の衝突は実り豊かな結果につながる

## 集団主義



- あいまいな表現、聞き手が掘り下げる必要性
- 意見の衝突はあまり望まれない



# 意思決定の方法の傾向 と関係する文化次元②

# 権力格差 Power Distance

# 権力格差

力の強い人と弱い人との間の不平等がどの程度受け入れられるか

## 参加型

不平等は最小限に  
すべての人に同等の権利を



- 権力の弱い、強いに関わらずお互いに頼ることができる
- 部下や生徒は相談されることを期待している
- 生徒は教師を対等な存在と捉える
- 学習の質は教師と学生との間のコミュニケーションと生徒が自律して学習しているかで決まる

## 階層型

力の弱い立場の人が、  
不平等を受け入れている



- 力の弱い人は強い人に依存する
- 部下や生徒は何をすべきか指示があることを期待している
- 生徒は学校の内外を問わず教師に敬意を払う
- 学習の質は教師の優秀さによって決まる

# 権力格差 日本の位置は？



A  
参加型  
Participative Orientation

D  
階層型  
Hierarchical Orientation



フラット

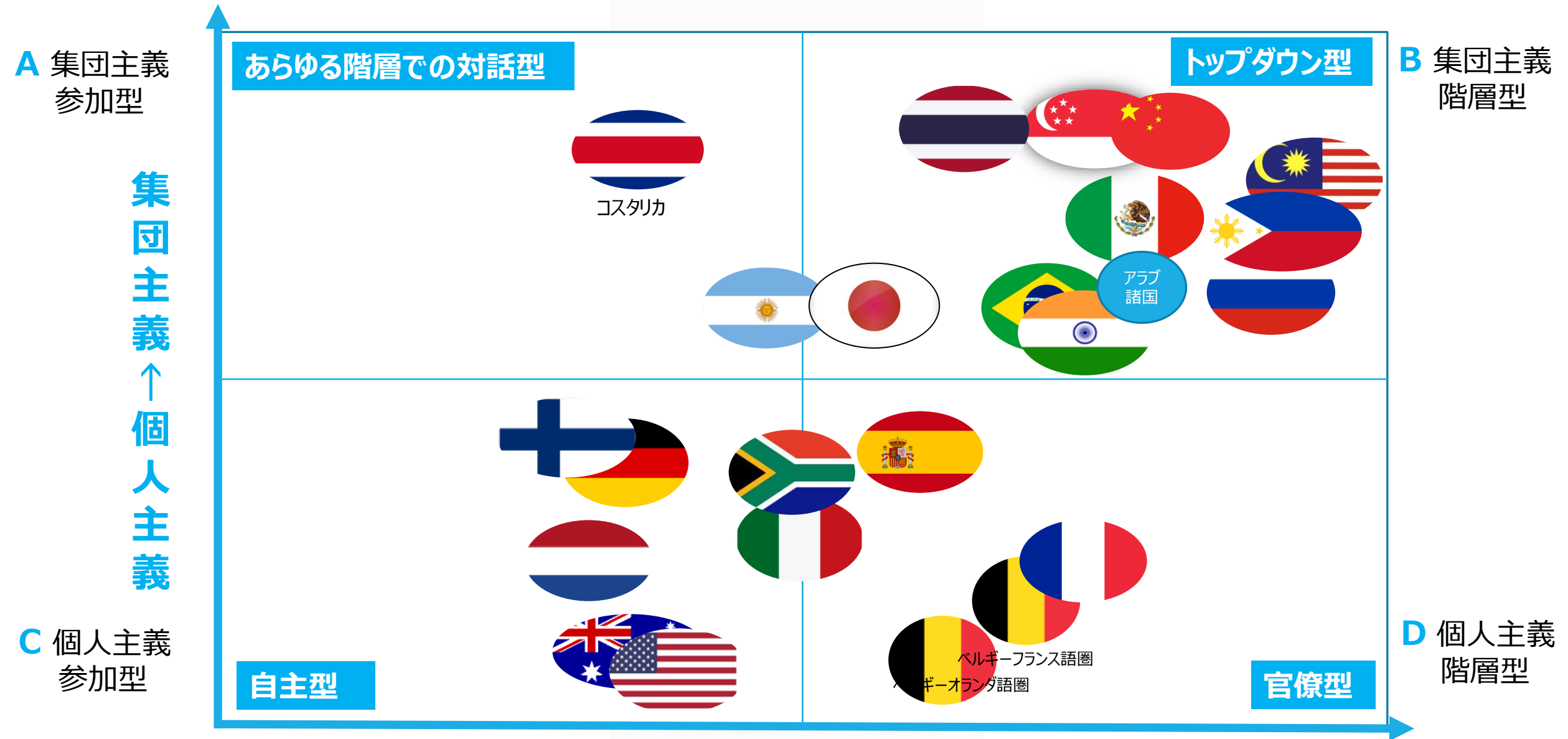
# 意思決定の方法

個人主義・集団主義

×

権力格差  
参加型・階層型

# 意思決定の方法



# 変化への対応の仕方の文化的傾向

➤ 変化の激しい環境でも成果を出す

個人・集団主義

不確実性の回避・許容

# 変化への対応と関係 する文化次元②

# 不確実性の回避-許容 Certainty

# 不確実性の許容-回避

あいまい、未知、または予測できない状況に脅威を感じる度合い

## 不確実性の許容



- 不確実なことは自然なことで、受け入れている
- ストレスや不安感は低い
- 絶対に必要な規則以外は必要ない
- 違うということに興味がある
- 学生は創造性、討論に関心がある
- 教師が「わからない」と言うことがある

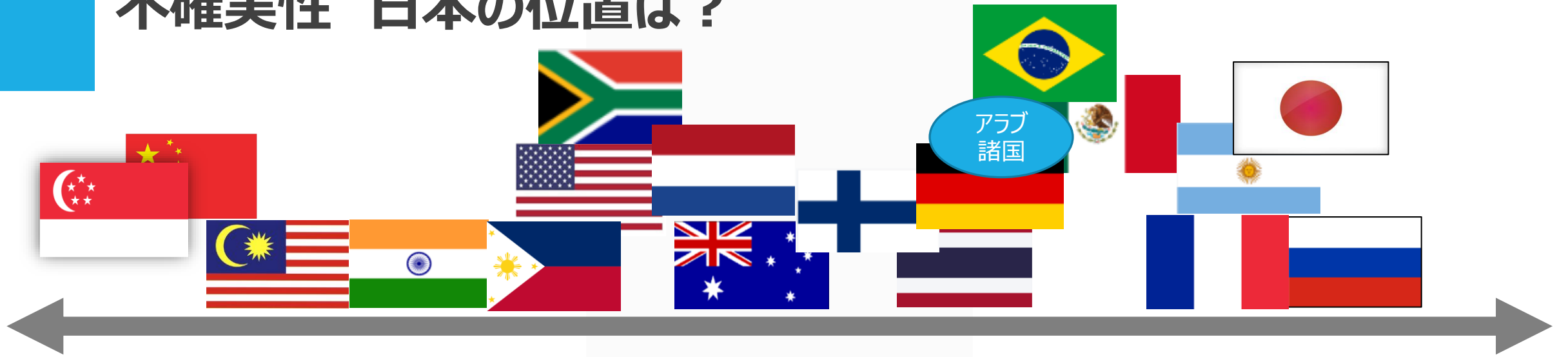
## 不確実性の回避



- 不確実性は脅威
- ストレスや不安感が高い
- 規則を求める
- 違うということは危険である
- 学生は一つの正解を見つけ出すことに関心
- 教師は何についても答えられる存在



# 不確実性 日本の位置は？



A

B

C

D

E

不確実性を許容  
Tolerance for Ambiguity

不確実性を回避  
Need for Certainty

# プレゼンの説明

あなたは、ある商品/サービスを国内外で販売する日系企業の海外営業部に所属しています。  
あなたのグループは、ある国の会社A(海外企業)へ、あなたの会社(日本)から商品/サービスを売り込み、  
現地の代理店になってもらう交渉をします。

今回は、会社Aの役員に自社の製品・興味を持ってもらうために、プレゼンし質疑応答の時間を持ちます。  
会社Aはみなさんの会社名、業種、商品・サービス名だけを知っています。「これなら売れそうだ」と思う、  
マーケティングプランを作成、プレゼンしてください。

## 多文化適応との関連

- ・商品・サービスが相手国で流行ると思った文化的背景を説明

例) 日本の職人の技、卓越した技術は大量生産ではなく、質を重視する相手国の傾向にマッチする  
11月18日に扱う、達成性 – 生活の質という次元に関連します。

- ・相手国が持っている文化的価値観に響くものを提供する

例) 富裕層向けに男性用美顔器の導入。権力格差の階層型の傾向のある国では、  
権力を持つ人、この場合は社会的に権力を持つ富裕層の人が一般の人が持っていないような  
ラグジュアリーなものをもちたがる傾向にあることに着目。

なぜかというと、ラグジュアリーなものは権威の象徴となるものだから。

- ・宣伝方法に文化的背景を活用

例) 不確実性の回避が強い傾向がある国向けのため、XXの専門家のお墨付きをもらって記載することがある。  
歯科医が推奨する歯磨き粉、料理専門家監修の調味料など。

# プレゼン課題の説明



準備で迷う事、質問がでてきたら [dacostaeriko@gmail.com](mailto:dacostaeriko@gmail.com)へご遠慮なくご連絡ください！  
メールではなくて、直接話した方が早い場合は、Zoom相談希望の旨、メールで送ってください。  
出来る限り対応させていただきます！

## ★資料

各国の6次元の特徴は以下のURLから調べることができます

<https://geerthofstede.com/country-comparison-graphs/>

# 今日のまとめ

- 文化の定義
- グローバル人材として文化を学ぶ意味
- 意思決定の文化的傾向
  - 個人-集団主義×権力格差（参加型・階層型）
- 変化への対応の文化的傾向
  - 不確実性の回避

**次回、変化への対応の文化的傾向の続きから  
行います。**

参考文献：

・ヘールト ホフステード, ヘルト・ヤン・ホフステード, マイケル・ミンコフ(2013). 多文化世界[原書第3版]. 有斐閣, 516p.

・Brian J. Hurn, Barry Tomalin(2013). Cross-Cultural Communication Theory and Practice. Palgrave Macmillan.